

2024年度
八戸学院大学
健康医療学部 人間健康学科
学校推薦型選抜

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

以下は、『千夜千冊』の著者であり編集者でもある松岡正剛氏（文中ではセイゴオ）の、「言葉」にまつわる書物についてのインタビュー記事の一部である。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

———お薦めの本は何ですか。

セイゴオ アンドレ・ルロワ＝グーランの『身ぶりと言葉』、マーシャル・マクルハーン
の『ゲーテンベルクの銀河系』、ウォルター・オングの『声の文化と文字の文化』の三冊が、三種の神器かな。

———おっ、三種の神本。どんな内容でしょう。

セイゴオ この三冊はごくはしょっていうと、かつてどんな言葉づかいにも、もともと「身ぶり」がひそみ、どんな文字も澆刺^{はつらつ}とした「声を持っていた」ということを基本主張としているんです。ここまでは見当がつかますね。しかしここには、さらに意外なことが証^{あかし}されていた。

———思わせぶりですね(笑)。

セイゴオ 思わせぶりということは、見逃せないということですよ。

———では、その心は？

セイゴオ 活版印刷^{かっばんいんさつ}が発達する以前、ということは写本の時代ですが、世界中の人々はすべからく本を声を出して、"音読"していたというのが第一のおどろくべき事実です。

———えっ、みんな音読していたんですか？世界中？

セイゴオ 洋の東西を問わず、みんな声を出して本を読んでいた。中世のヨーロッパの図書館には閲覧室^{みづらんしつ}の図がのこっていますが、それを見ると閲覧者は一人一人「キヤレル」というブースのようなもので隔^{へだ}てられている。これは隣どうしがぶつぶつ声を出して読んでいるのを互いに邪魔されないためなんです。日本でも『源氏物語絵巻』などで公達^{きんだち}が絵巻を声を出して読んでいるのを、御簾^{みす}や几帳^{きしょう}の陰で女房が立ち聞きしている絵があります。

———それは意外でした。ちょっとショックですね。

セイゴオ ショックをもったほうがいい。つまりわれわれは長らく音読しかできなかったんですね。幼児が「おかあさんと、がっこうにいきました」というふうに声に出さないと読めないのと同じだね。これはほんとうに事実です。ところがいつしか、"黙読^{もくどく}"が広がっていった。これは*ゲーテンベルクの発明以降に活版印刷が普及してからのことだと推測されているんです。

———どうして活版印刷の普及が"黙読"を広めるんですか。

セイゴオ それまでは写本^{しゃほん}だったわけだね。写本というのは左に原本をおいて、それを目で追い声を出しながら右の紙に書き写していく。それが活版印刷によって写本が必要じゃなくなっていく。そうすると、印刷された本を目で読むようになっていく。そうしているうちに声を出さなくなったんです。その歴史的推

移をミルマン・パリーが推理して、これをマクルハーンが『ゲーテンベルクの銀河系』で解説してみせた。

———そういうことだったんですか。

セイゴオ　ところでね、世界中に本を目で読む"黙読"が広まるにつれて、意識の奥のどこかにいまではまとめて「無意識」とよばれている領域のようなものがだんだんできあがってしまったというのが、第二の驚くべき推理なんです。ただし、これはまだ仮説です。

———ええーっ、それはもと驚くべきことですね。それまでは人類に無意識ってなかったんですか？

セイゴオ　そういう可能性もありうるということです。

———これも大ショックです。

セイゴオ　ショックは大きい方がいいです(笑)。それにしても誰もあるだろうと感じてきた無意識が、われわれが声を出さずに本を黙読するようになってから脳(意識)のどこかに初めてそなわったというのだから、これは仰天^{ぎょうてん}する仮説だよね。

———体がガクガクするくらい。

セイゴオ　なぜ黙読社会が定着してしまったのかという謎解きはさておき、このようになってしまっている以上は、古代中世社会とはまったく同様に書物に接するということは、できなくなったというべきなんだろうねえ。

ましてや、いまはウェブ時代。その前はテレビ時代。**リテラシーがものすごく変質しているわけです。どんどんこういう社会の拡張が加速している以上は、現在のわれわれはどのようなことを「言葉」や「文字」や「***テキスト」に感じるべきか。もう一度根本的に考え直したほうがいい。そういうことでしょう。

*ゲーテンベルクの発明以降：15世紀のドイツ人ヨハネス・ゲーテンベルクは、1450年頃に活版印刷機を発明し印刷所を開いた。それまで書物は手で書き写されて細々と流通されていた貴重品だったが、印刷機が発明されて以来、大量に出版されて普及した。

**リテラシー：読み書きの能力。また、ある分野に関する知識や能力。

***テキスト：文芸作品、文書のこと。

(出典：松岡正剛『ちょっと本気な千夜千冊虎の巻：読書術免許皆伝』求龍堂、2007年、126-129頁。問題作成にあたり、一部読み仮名を加えた。)

【問題】

このインタビューにおいて、インタビューしている人は大きくショックを受け驚いているが、何に驚いているか、二つ述べよ。また、インターネットや SNS 時代をむかえて、今後人間の脳はどのような変化や進化または退化をされると考えられるか、600-800 字程度で論じなさい。